

さんけん新聞

発行
NPO法人
三段峡-太田川
流域研究会
(代表・本宮炎)

〒731-3813
広島県山県郡
安芸太田町
柴木 1734
☎090・
3421・3046

一口メモ

▼**新商品**
LOUPEが営業を始め
た四月四日、井仁オカリナ合
奏団によるコンサートが店
内で開かれた。本宮宏美事
務局長は電子ピアノで共演
し、地域の人にも心地よい
音色を楽しんでもらった。
新しく自分で館を詰める

タイプのもナカが販売され
た。三段峡の軟水を閉じ込め
た琥珀糖に加え、コーヒータ
抹茶のお供になる品が一つ
増えた。満足度アップへ。

主体的に学ぶ児童 森生かし生涯教育

自然塾の運営、町との協働にヒント

同小学校の教育テーマは「内から育つ」。六十年以上前からチャイムがなく、固定の時間割や通知表のない公立校として知られ、児童が主体的に学ぶ授業や動物の飼育など体験的な活動を重視している。

火の日に主幹している。伊那市の教育環境や生涯教育の事例は、小学生から中高生へステップアップするさんけん自然塾の参考に
なり、本宮理事長は「さんけんと安芸太田町との協働についてヒントを得た」と視察を振り返った。

「森林生態学入門」など寄贈
広島修道大退職の西村仁志教授
さんけんの活動に有用な書籍五十冊が寄贈された。

西村さんとさんけんが合ったのは二〇一七年、栃木県で開かれた環境省の

人材育成事業がきっかけ、三段峡での現地指導もあった。インタプリーションの第一人者で「人と世界の関係性を問い直し、新たに結び直すための方法」と説く。今後は京都を拠点に普及活動に取り組む。

環境教育の先進地 長野県伊那市を視察

伊那小学校／ミドリナ委員会

環境教育の先進事例を調査するため3月29日、長野県伊那市の市立伊那小学校と伊那市ミドリナ委員会の活動場所を本宮炎理事長ら3人が視察した。さんけん自然塾の運営や安芸太田町と協働するうえで同市の取り組みには、示唆に富むものが多くあった。



説明の活動で林木雑
を聞き本宮理事長

ミドリナ委員会の委員を務め、毎月開く「たき

森生を活動した
生涯教育に取り
組んでいる山本
風音さんの二
人。山本さんは
ミドリナ委員

は森や川、人間の活動が関
わる複雑な生態系」とレポ
する予定だ。

恒例になったLOUPE
のDIY改装で、さんけん
植物部の山崎雄二さんが得
意の木工技術を生かし、テ
イクアウトで外のベンチを
利用するカフェ客用に分別
ゴミ箱を制作した。

春の探勝路整備
さんけん六人が参加
三段峡開映を前に三月二
十六日、三段峡観光同業組
合が水梨口―黒淵間の土砂
や落石を片付けた。さんけ
んからはスタッフ四人とさ
んけん植物部の足立龍次さ
ん、ゴマシジミ調査に同行
をしていた大学生の河野夕
真さんが参加した。

セピア写真帖

(最終回)



連載を終えるにあたって
まず、お詫びして訂正する。

温故知新 眼差しを三段峡の未来へ

第十六回の横ヶ瀬の写真に
ある今も健在の大木は、文
中でコナラとしているがミ
ズナラだった。

二十年間のものである。当
時と戦後では文化的背景に
隔たりがあり、視覚的な資
料によって開映当時の三段
峡への「眼差し」が伝わる

れも文人趣味的な南面など
の影響を受けて水より岩の
美に支えられ、庭園的に表
現されているのが特徴だ。

戦後の指定は黒部峡谷や
上高地など「大自然系」であ
る。全長十六キロの三段峡は
生態系も多彩で、庭園系と
大自然系が両立する稀有な

次号からさんけん植物部
の皆さんが、三段峡の探勝
路で見かける花を紹介する
「花の小径」を連載します。

佐藤亜紗さん退職
LOUPEスタッフの佐
藤亜紗さんが三月三十一日
付で退職した。さんけんの
活動には今後も参加する。

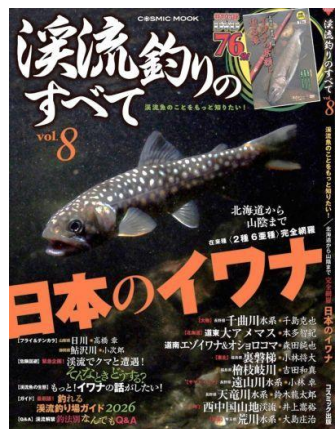
外国人向け教育ツアーを設計

叡啓大三年生のヘンリーさん

叡啓大学のインターンシ
ップ制度でナイジェリア出
身の四年生アデモラ・ヘ
ンリーさんが三月四日から
計七十時間、さんけんスタ
ッフから専門分野の知識を
聞き、LOUPEや三段峡
などで活動した。

ヘンリーさんは「三段峡
は森や川、人間の活動が関
わる複雑な生態系」とレポ
する予定だ。

出版発行
の「溪流釣りのすべて
vol.8」に、井上嵩裕隊員
の釣行記事が掲載され、アマゴが釣れる
太田川が紹介された。



出版発行
の「溪流釣りのすべて
vol.8」に、井上嵩裕隊員
の釣行記事が掲載され、アマゴが釣れる
太田川が紹介された。

分別ゴミ箱設置 山崎さんが制作

恒例になったLOUPE
のDIY改装で、さんけん
植物部の山崎雄二さんが得
意の木工技術を生かし、テ
イクアウトで外のベンチを
利用するカフェ客用に分別
ゴミ箱を制作した。

費用は約十万円。材料
費は一万五千円程度。

活動には今後も参加する。